

ドライブレコーダの市場予測

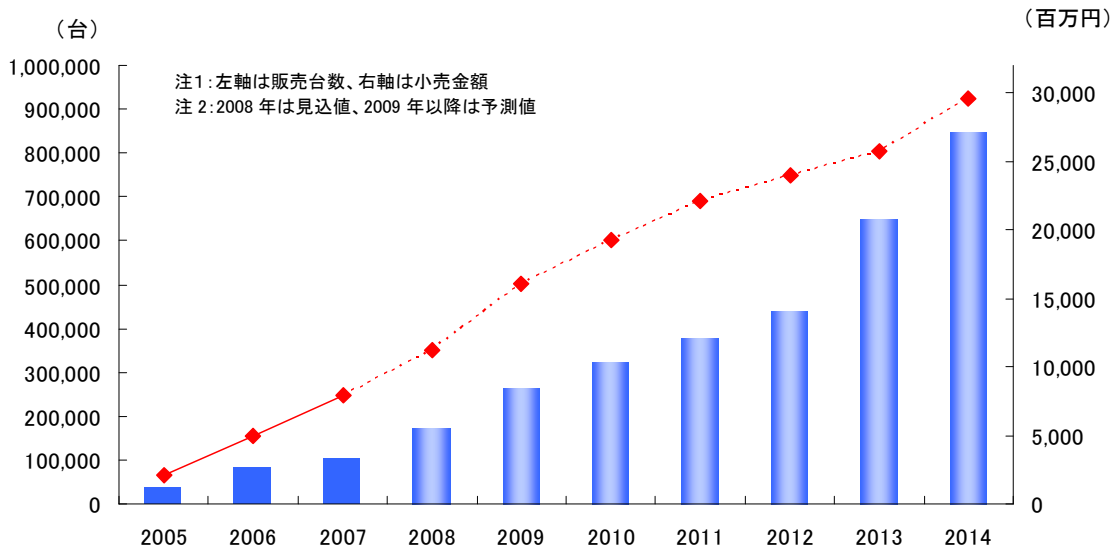
1. ドライブレコーダの用途

ドライブレコーダは、事業用自動車のトラブルや事故発生時に記録データを分析して事故率低下を目的に使用されるケースが殆どでしたが、将来は、エコドライブ推進や安全運転対策への活用が期待されています。

- (1) 燃費向上対策
ふんわりeスタート、アイドリングストップなどの運転状況を分析し、エコドライブ指導や燃費向上に利用。
- (2) 安全運転の推進
急加速や急ブレーキ、急ハンドルなどのヒヤリハット事象、交通事故状況の分析により、安全運転教育を行うために利用。
- (3) 商用車としての運行記録
運行経路や車両スピード等の記録での渋滞分析などを行い運行の効率化に利用。
- (4) 防犯
車内の盗難や不審者の乗車の監視目的としての利用

2. ドライブレコーダ市場

国内ドライブレコーダ市場の将来予測



出典：株式会社矢野経済研究所「ドライブレコーダ市場に関する調査結果2008」(2008年11月20日発表)

3. ドライブレコーダの省燃費運転への活用

自動車業界での省エネルギー推進の中で、「省エネ運転技術の向上」により、20%の燃費改善効果(※1)が見込めるとの推定もあることから、各業界団体を中心に様々な取り組みがされています。省エネ運転技術の向上が浸透すれば、日本国内だけで、①CO₂排出の削減は 3000 万トン以上、②経済効果としては 1 兆 4000 億円が期待できるという試算もあります。

<活用事例>「ドライブレコーダによる、エコドライブ支援ツール」
エコドライブの項目について、ドライブレコーダが判断し、オンタイムでの報知や運転停止後の講評、また、記録データをアップして講評、ドライバーに指導を繰り返す WEB システムの構築が検討されています。

ドライブレコーダが普及し、エコドライブのシステム構築によりもたらされる経済効果は非常に大きいと言えます。ロームはドライブレコーダの持つ将来性に向けて、LSI により貢献を果たしたく考えています。

- ※ 1: ふんわりアクセル e スタートで燃費 10%以上向上、目標速度 5km/h抑制で燃費 5%向上、暖機運転と無駄なアイドリングをなくして燃費を向上し、20%燃費向上を呼びかけ。((財)省エネルギーセンター等取組みより)
- ※ 2: 国内自動車保有台数(7920 万台)の平均年間走行距離(8645km)(国土交通省発表統計のデータ)に基づき平均燃費を 10km/ℓと仮定して試算。
CO₂排出量については、経済産業省が定める報告マニュアルに記載されている算定方式を用いました。